

市立高校教育改革方針(改定版)【概要版】

第1章 札幌市立高校教育改革方針について

1 方針の策定及び改訂の趣旨等

(1) 方針の策定について

市立高校を取り巻く状況を踏まえ、市立高校の教育内容を充実・発展させるとともに、少子化に伴う高校進学者数の減少期における市立高校の在り方を示すため、H29年に「札幌市立高校教育改革方針」を策定。

(2) 改訂について

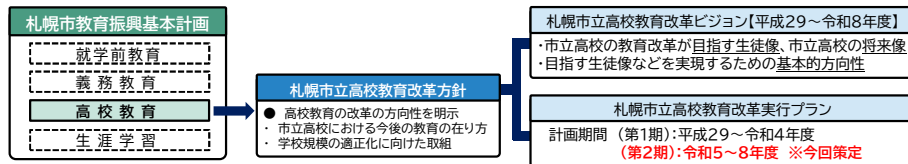
R5～R8年度までを計画期間とする「札幌市立高校教育改革実行プラン(第2期)」の策定のため改訂。「札幌市立高校教育改革ビジョン」については、策定以降の様々な状況変化を勘案しても引き続き適切なものと考え、現行の内容をR8年度まで維持。

2 方針の位置づけ

「札幌市教育振興基本計画」(H26策定)のうち、市立高校における教育改革の方向性を具体的に示すもので、市教委が所管する市立の高等学校及び中等教育学校を対象。

3 方針の構成及び計画期間

10年間を見据えた基本理念を示す「札幌市立高校教育改革ビジョン」と、前期・後期で取り組む施策・事業を示す「札幌市立高校教育改革実行プラン(第1期・第2期)」で構成。



第2章 市立高校を取り巻く現状と課題

1 人口動態・中学校卒業生数の推移

- 今後も少子化が一層進むことが予想されるなか、中学校卒業生数については、札幌市全体でH29年には15,842人のところ、R12(2030)年には15,094人まで減少する見込み(道教委推計)。
- 特にR9(2027)年には437人の大幅な減少が見込まれ、道教委と協議しながら今後の市立高校の定員調整について検討する必要がある。

2 スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの策定

- R3年度に、各校のスクール・ミッション(各校に期待される社会的役割等)、スクール・ポリシー(スクール・ミッション等の達成に向けて、教育活動の指針となる3つの方針)を策定。
- 今後は、これらを起点として組織的かつ計画的に学習者重視の立場から各種の教育活動の改善を図る必要。

3 社会に開かれた教育課程と地域との連携・協働の強化

- 新学習指導要領では地域の人的・物的資源も活用し、社会との連携及び協働による「社会に開かれた教育課程」を重視。
- 体験と実践を伴った探究的な学びを進めていくことが必要であることを踏まえ、地域社会や大学、企業等の関係機関と連携・協働することが必要。

4 情報活用能力の育成とICT活用

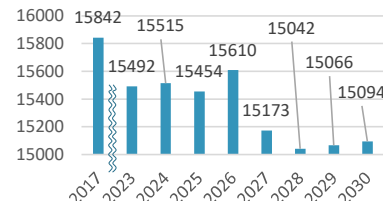
- 新学習指導要領において、「情報活用能力」を言語能力、問題発見・解決能力等と同様に学習の基盤となる資質・能力として位置づけ。
- society5.0時代に必要な資質・能力として、ICT端末を活用しながら高等学校における情報活用能力の育成が必要。

5 高等学校の特色化・魅力化の推進の推進

- 高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための各高等学校の特色化・魅力化が急務。
- 幅広い分野で新しい価値を提供できる人材を養成することができるよう、STEAM教育の推進等、これまでの文系・理系といった枠にとらわれず、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決等に結びつけていく資質・能力の育成が必要。

市立高校を取り巻く状況(H29)
○ 生徒の興味・関心や進路志望等に応じた多様な学習ニーズへの対応
○ 生産年齢人口の急減やグローバル化の進展など変化の激しい社会を生き残る力の育成
○ 市内の中学校卒業生数が減少する中、市立高校の学校規模の適正化

札幌市内中学校卒業生数の推移(道教委推計)



6 地域振興の核としての高等学校の機能強化

- 地域への課題意識や貢献意識を持ち、将来、地域ならではの新しい価値を創造し、地域を支えることができる人材の育成という観点からも、地域との連携・協働を強化することで、高等学校の段階で地域を知り、親しむ機会を創出することが重要。

7 入試実施状況(倍率)について

- R4.3月実施の入試における出願倍率を見ると、すべての市立高校において一定の水準を維持(平均1.5倍)。
- 高校入学者数の大幅な減少が見込まれる中においても、市立高校各校の魅力化・特色化や市立高校全体での取組等を推進するため、今後も一定の入学者数を継続的に確保することが必要。

学校名	学科名	R4倍率
旭丘高校	普通科	1.5
旭丘高校	数理データサイエンス科	1.0
藻岩高校	普通科	1.6
平岸高校	普通科	1.8
平岸高校	デザインアートコース	1.9
清田高校	普通科	1.6
清田高校	グローバルコース	1.1
新川高校	普通科	1.3
啓北商業高校	未来商学科	1.1
大通高校	普通科(午前)	1.6
大通高校	普通科(午後)	1.6
大通高校	普通科(夜間)	1.5

第3章 札幌市立高校教育改革ビジョン

計画期間の10年間で、市立高校の教育改革が目指す生徒像と市立高校の将来像を次のとおり掲げ、その実現のため、3つの基本的方向性に沿って教育改革の取組を推進。

1 市立高校の教育改革が目指す姿

目指す生徒像
■ 夢や希望の実現に向かって、主体的に学び、探究する生徒
■ 個性や多様性への寛容さを持ち、他者と協働し、新しい価値を創造する生徒
■ 積極的に社会と関わり貢献する生徒

市立高校の将来像
■ 生徒の主体的で探究的な学びを促す、魅力ある学びの場
■ 様々な差異を超えて、多様な生徒が共に学び、支え合い、成長することができる学びの場
■ 地域、企業など社会との関わりを通して成長できる、社会に開かれた学びの場

2 基本的方向性

基本的方向性
① 生徒の個性や能力を伸ばす質の高い教育の充実
② 社会に開かれた教育活動の推進
③ 学校の取組を支える仕組みの構築

第4章 札幌市立高校教育改革実行プラン(第2期)

1 札幌市立高校教育改革実行プラン(第1期)の振り返り

基本的方向性1 生徒の個性や能力を伸ばす質の高い教育の充実 主な取組

- 理数分野を中心とした幅広い教養と情報活用能力を併せ持つ人材の育成を目指し、旭丘高校に数理データサイエンス科を開設(R4)。
- 啓北商業高校のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール、開成中等教育学校のスーパー・サイエンス・ハイスクール、スーパー・グローバル・ハイスクールを活用した先端的な研究開発の実施。
- 各校においてBYODによる一人一台端末を活用した教育活動を開始。
- 各学校の特色ある事業の中で、市立高校生が相互に交流し、その成果を単位認定できる仕組みとして学校間連携指定事業(プログラム数H29:4→R4:7講座)を整備。
- 開成中等教育学校において、国際バカロレアのMYP(ミドル・イヤーズ・プログラム)、DP(ディプロマ・プログラム)の認定を取得し、国際バカロレアの教育プログラムを活用した課題探究的な学習モデルを推進。
- 令和2年度に清田高校、令和3年度に藻岩高校をそれぞれ2学級削減し、併せて両校に自らの興味・関心や、希望の進路選択に合わせた学びを主体的に選択できる単位制を導入。
- 令和9年度に、藻岩高校と啓北商業高校の2校を発展的に再編した新設校を設置する方針を決定。

基本的方向性2 社会に開かれた教育活動の推進 主な取組

- 大通高校における大通高校版コミュニティ・スクール事業の実施。
- 藻岩高校における南区を題材にした地域探究活動である「MSP」、大通高校における「環境」をキーワードとした学校と地域社会との連携による「ミツバチプロジェクト」等、各校がそれぞれ地域の教育資源を活用した教育活動を推進。
- 地域との協働による課題解決に向けた探究活動を行う「まなびまぐり」や、北海道の農と食に触れながらキャリア探究を行う「アニマドール」等、地域との連携による特色ある教育活動を学校間連携事業として市立高校合同で実施。
- 札幌市における科学技術系人材の育成に資すること等を目的とした旭丘高校数理データサイエンス科の開設、スタートアップ事業や札幌市立大学との連携等、札幌市の関係部局や課題・施策との連携を強化した取組を充実。

基本的方向性3 学校の取組を支える仕組みの構築 主な取組

- 市立高校ポータルサイト(<https://ichiritsukoukou.jp/>)の開設
- 「市立高校プレゼンテーション大会」をチ・カ・ホ【札幌駅前通地下広場】(H29)、札幌市民ホール(H30)、オンライン開催の動画をYouTubeに掲載(R3)と、様々な場所、形態で実施することで、各学校の特色ある取組や生徒の学習成果等を効果的に発信。
- 「市立高校コンシェルジュ」が、各学校の特色ある取組や部活動、市立高校学校間連携プログラムを含めた課外学習等の情報を幅広く収集し、様々なメディアを通じて、積極的に広報活動を展開。
- 旭丘高校数理データサイエンス科におけるデータサイエンス教育等の充実に向けた北海道大学や札幌市立大学との高大連携の実施。

2 成果指標の進捗状況

3項目の成果指標中、2項目について、当初値、中間目標値のいずれも超えた結果となっている。

基本的方向性	成果指標	指標設定の考え方	当初値	中間目標値(R4)	現状値(R4.6)
1 生徒の個性や能力を伸ばす質の高い教育の充実	市立高校の教育に満足している生徒の割合	身に付けた力などを基にした生徒の満足度を示す指標	79.4%(H27)	85.0%	85.2%
2 社会に開かれた教育活動の推進	外部人材等の授業を今後も受けたいと考えている生徒の割合	地域等と連携した教育活動に対する、外部人材等の授業を受けた生徒の満足度を示す指標	86.3%(H27)	92.0%	75.0%
3 学校の取組を支える仕組みの構築	市立高校の特色ある取組を今後も続けてほしいと考えている市民の割合	市立高校の教育に参加・協力した市民や企業等の理解度を示す指標	75.5%(H23)	85.0%	95.7%

3 札幌市立高校教育改革実行プラン(第2期)の施策体系

ビジョンに掲げた三つの基本的方向性に基づき、今後4年間で取り組む教育改革に係る基本施策、事業等を設定。

基本的方向性	基本施策	施策	主な事業・取組
1 生徒の個性や能力を伸ばす質の高い教育の充実	(1) 生涯にわたって活用できる力の育成	① 新しい時代に必要な資質・能力の育成	重点1 ●カリキュラム・マネジメントの推進 ●ICT活用推進と情報活用能力の育成 ●理数・情報教育の充実 ●課題探究的な学習モデルの普及推進
	(2) 各学校の特色化の充実	① 多様な特色ある教育プログラムの提供	●既存の学科・コースの充実 ●地域と連携・協働による学びの推進 ●国の研究開発事業の積極的な活用
		② 学校間連携・授業連携の推進	重点2 ●協働・学び合いの場の充実 ●単位制導入校の拡大
		③ 学習成果を発表する機会の設定	●学習成果発表会の実施 ●市立高校の魅力の積極的な発信
	(3) 市高スタンダードの展開(全校共通の取組)	① 特別な配慮を必要とする生徒への支援の充実	重点3 ●校内支援体制の充実 ●通級指導教室の充実 ●個別的教育支援計画等の作成による支援の推進 ●大通高校支援事業の実施
		② 進路探究学習の充実	●キャリア教育の推進
		③ 国際理解教育の充実	●外国語教育の充実 ●グローバルリーダー育成キャンプの実施 ●国際バカロレア教育の推進 ●異文化理解の進化、平和に関する教育の充実
	(4) 教員の資質・能力の向上	① 教員の授業力向上のための研修体制の充実	●課題探究的な学習を取り入れた授業等に関する研修の充実 ●高校改革先進事例の研究支援 ●カリキュラム・マネジメント研修会の実施支援
	(5) 特色ある学びを支える環境の充実	② 市立高校の今後の在り方についての検討	●発展的再編の円滑な実施に向けた検討 ●規模適正化及び果たすべき役割についての検討
2 社会に開かれた教育活動の推進	(1) 地域資源を生かした教育の展開	① 地域や企業、大学等と連携した教育の充実	重点4 ●大学や企業等との連携・協働の強化 ●大通高校コミュニティ・スクール事業の推進 ●コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入に向けた検討
	(2) 地域に貢献する人材の育成	① 地域の魅力や課題と結びつけた学習の推進	●札幌を教材とした学びの充実 ●地域課題解決型プロジェクト学習の調査研究
3 学校の取組を支える仕組みの構築	(1) 広報活動の充実	① 様々なメディア・機会を通じた広報活動の強化	●市立高校ポータルサイト等を活用した魅力発信 ●小・中学生等を対象とした早期からの理解啓発
		① 広報活動を支援する組織体制の整備	●「市立高校コンシェルジュ」による広報活動の支援
	(2) 外部との相互連携を進める仕組みづくり	① 地域や企業等との相互連携の推進	●大学や企業等との連携・協働の強化【再掲】
		① 学校と地域・企業等をつなぐ組織体制の整備	重点4 ●「高校と地域をつなぐコーディネーター」による外部連携の支援 ●地域連携協働体制の構築に向けた検討

注)施策と主な事業・取組の欄に記載している「重点」は、教育改革実行プラン(第2期)の4つの重点項目

4 札幌市立高校教育改革実行プラン(第2期)における重点項目

市立高校を取り巻く現状・課題や、実行プラン(第1期)の振り返り等を踏まえ、実行プラン(第2期)において特に力を入れて取り組む項目を、4つの「重点項目」として設定。

重点1

新しい時代に必要となる資質・能力の育成
各校がスクール・ポリシーで明確化した育成を目指す資質・能力のほか、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力等の着実な育成を市立高校全体で進めるため、各校においてカリキュラム・マネジメントの充実や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進します。

重点2

学校間連携・授業連携の推進
市立高校8校の強みを活かし、生徒の多様な学習ニーズに応え、主体的に学習に取り組む意欲や態度の育成を図るとともに、他校の生徒との交流・学び合いの機会を設けることで、個性や多様性への寛容さや協働性の育成につなげるため、特色ある事業等に興味・関心のある他校生徒の参加を可能とし、市立高校全体で共有する仕組みである「学校間連携・授業連携」を、市立高校が一体となってさらに推進していきます。

重点3

特別な配慮を必要とする生徒への支援の充実
学校生活や対人関係など様々な要因により、学びに悩みを抱える生徒などが安心して学ぶことができる校内支援体制を構築するとともに、「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」でまちづくりの重要概念の一つとして「ユニバーサル(共生)」を掲げていることを踏まえ、誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会の実現に向けて、障がいのある生徒とない生徒が共に学ぶ機会などを拡充していく必要があることから、「特別な配慮を必要とする生徒への支援の充実」を重点項目としています。

重点4

地域や企業、大学等と連携した教育の充実・学校と地域・企業等をつなぐ組織体制の整備
地域や企業、大学等との連携を一層強化するとともに、地域・企業などの学校運営への参画を促進するなど、地域に開かれ、地域と支え合う学校づくりに取り組みます。
また、高校と地域をつなぐコーディネーターの配置検討等により、社会に開かれた教育課程や地域創生の核となる市立高校の実現に向けた支援体制を整備します。

市立高校の今後の在り方についての検討

これまで、札幌市内の中学校卒業生数の推移等を踏まえ、市立高校における学級削減を行ってきましたが、今後も機械的な学級減を続けると、各校の規模が縮小し、教育課程の専門性・多様性の維持や活気ある行事・部活動等の実施が困難となる等、市立高校がこれまで築いてきた特色・魅力が損なわれる恐れがあります。
令和9年度の発展的再編については、再編により一定の学校規模を維持しながら、これまで築いてきた特色・魅力をより一層発展させることが必要と考えたものです。
今後も中学校卒業生数の減少が継続することが見込まれる中、市立高校が今後も適正規模を維持しながら、生徒にとって魅力ある学校であり続けるとともに、札幌市の持続的な発展に貢献する役割を果たしていくべく、市立高校の今後の在り方について引き続き検討を進めます。

第5章 方針の推進に当たって

1 推進体制

各校と教育委員会が一体となり施策・事業を推進し、市関係局及び国・北海道など関係機関と連携しながら施策を展開します。

また、地域、企業、大学等の教育機関など多様な主体の参画を得て、更なる教育の充実を目指します。

2 進行管理

成果指標を設定し、事業の成果を客観的に検証し、必要に応じて事業内容の変更や追加を行います。

基本的方向性	成果指標	指標設定の考え方	現状値(R4.6)	目標値(R8)
1 生徒の個性や能力を伸ばす質の高い教育の充実	市立高校の教育に満足している生徒の割合	身に付けた力などを基にした生徒の満足度を示す指標	85.2%	90%
2 社会に開かれた教育活動の推進	外部人材等の授業を今後も受けたいと考えている生徒の割合	地域等と連携した教育活動に対する、外部人材等の授業を受けた生徒の満足度を示す指標	75.0%	90%
3 学校の取組を支える仕組みの構築	将来的に札幌に貢献したいという意識をもつ生徒の割合	地域や企業との連携・協働の取組の仕組み等の充実による、生徒の主体的な地域貢献への意識醸成を図る指標	63.7%	80%

市政等資料番号 02-S02-23-683